厚生労働科学研究費補助金（がん対策推進総合研究事業）

分担研究報告書

小児・AYA 世代がん患者のサバイバーシップ向上を志向した妊孕性温存に関する心理的支援体制の均てん化に向けた臨床研究(H29-がん対策-　一般-008)

研究分担者　二村　学　　所属施設名　岐阜大学腫瘍外科　　職名　臨床教授

研究要旨

小児・AYA 世代のがん患者は、妊孕性喪失に対する多岐・長期に渡る不安と苦悩が強い（Gorman, 2010)。不確実性の中で不安と恐怖を有するがん患者は、将来の妊孕性や生殖機能温存に関してまで短期間に自己決定しなければならない大変困難な精神状態にあり、がん患者への心理介入が有効であることは明らかになっている。本研究の１年目で開発した「がん告知時期に行う忍容性温存に関する夫婦心理教育プログラム」の他施設合同ランダム化比較試験に参加し、研究計画立案補助、データ収集、成果発表の一部を分担する。

A．研究目的

本研究の目的は、AYA 世代の中でも若年乳がん患者のサバイバーシップにおいて最も重要な課題の一つである妊孕性温存に関する心理支援体制の構築を目指す。

B．研究方法

以前開発した「がん告知時期に行う忍容性温存に関する夫婦心理教育プログラム」の他施設合同ランダム化比較試験(0’PEACE!試験)に参加。また、班会議での試験の進捗、データ収集と解析など意見交換、関連学会への参加による情報収集、成果発表、心理士教育等を分担したが、さらに多くの患者に対する研究を進めていく。

C．研究結果

本研究班開発の心理教育プログラムの有効性が確認された。（成果発表会等）

D．考察

臨床心理士による、がん告知時の妊孕性温存に関する意思決定支援は AYA がんサバイバーシップの向上と少子化対策の一助となりうるまた、そのための心理士教育事業も端緒に付けることができた。

E．結論

乳がんサバイバーシップの向上において、夫婦に対し、診断早期からの心理士による妊孕性温存に関するカウンセリングが必要と思われる。

F．健康危険情報

総括研究報告書にまとめて記入

G．研究発表

1．論文発表

なし

2．学会発表

2017.7.15 第23回日本乳癌学会　若年乳癌患者の妊孕性温存に対する地方都市での試み

（厳選ポスター）　二村　学
2017.11.3 JSFP-Oncofertility Consortium
JAPAN meeting 2017
岐阜県における癌治療における妊孕性温存
の現状　シンポジウム（口演）二村　学

H．知的財産権の出願・登録状況
（予定を含む。）
１．特許取得
なし

２．実用新案
なし

３．その他
なし